

部署紹介

麻酔科

主任部長
兼手術センター長
小林 俊司

ー麻酔科ご紹介ー

手術麻酔とペインクリニック(疼痛外来)を主な業務としていきます。スタッフは11名で、麻酔科専門医もしくは指導医が10名、専攻医が1名在籍しています。小児から高齢者、帝王切開から心臓手術まで、幅広い症例に麻酔対応が可能です。またペインクリニックは、日本ペインクリニック学会専門医3名を中心に、毎日外来を開いています。

ペインクリニックについて

ペインクリニックは「痛みの治療」を専門としています。ペインクリニックでは生活の質向上を目指す「痛み治療」を、患者さんと共に進めていきます。ペインクリニックでの治療法には、以下の4種類があります。

- ① 薬物治療(鎮痛薬などの処方)
- ② 神経ブロックや関節包・滑液包・腱鞘内注入(局所麻酔薬や抗炎症薬のステロイドを神経周囲などに注入する)
- ③ 神経調節(電場を発生させ神経伝達経路に影響を与える。例:パルス高周波法、脊髄刺激療法)
- ④ 神経破壊(癌の痛みを伝える神経に神経破壊薬を注入する、感覚のみの神経を熱凝固するなど。)

不調のある部位から脳への、痛み伝達を抑制するのが神経ブロックです。超音波・X線・CTを用いて、痛みを伝える神経や関節周囲に局所麻酔薬などを注入します。昨年の実績は、三叉神経ブロック228件、星状神経節ブロック104件、頸・胸部神経根ブロック208件、腕神経叢ブロック276件、肋間神経ブロック39

7件、腰仙部硬膜外・神経根ブロックは92件、坐骨神経ブロック234件でした。肩こりや頸背腰臀部痛に対する、脊髄神経後枝ブロックや各関節周囲注入は計1,096件、癌性疼痛に対する、神経破壊は8件でした。「動く痛みから自分らしく生活できない、痛みがあるから動きにくい。」と思ったら、是非一度、当ペインクリニックを受診してみてください。私たちは痛みでお悩みの患者様に、ペインクリニックや他科の治療も含めたトータルでの痛みの管理法を知っていただき、より質の高い生活をしていただけたらと考えております。

手術麻酔について

2023年度の年間総麻酔管理件数(アンギオ室含む)は2,668件、その中で全身麻酔は2,460件でした。昨年度から手術支援ロボットの利用も始まりました。また今年度はハイブリッド室が増設され、近々経力テール的大動脈弁植え込み術(TAVI)も開始される予定です。当院は救命救急センター、泉州広域母子医療センター、心臓・血管センター、高度脳損傷/脳卒中センターがあるため緊急性、重症度の高い手術が多いという特徴があります。対応の難しい症例が多く、緊急や深夜の対応も頻繁なため、スタッフは専門医レベルの麻酔科医を十分な人数揃えています。



麻酔科のメンバー

を揃えることにより、深夜明けの無理な勤務をなくし、子育て支援や学会発表、論文執筆等を可能にするなど、勤務医の労働環境にも十分配慮しています。そうすることで、優秀な麻酔科医の長期安定確保を実現しているのです。また当麻酔科では、集中治療室(CCU)や緩和ケアチーム、人工呼吸ケアチーム、災害派遣医療チーム(DMAT)などに対し、必要に応じた協力も行ってまいります。今年度は産科と協働し、無痛(和痛)分娩にも関わっていく予定です。地域の様々な方々に支えられ、これまで当麻酔科を維持することができました。これからもどうか、宜しくお願いいたします。

Profile



小林 俊司
(こばやししゅんじ)

- 1988年 東京大学 農学部 卒業
- 1994年 弘前大学 医学部 卒業
- 1996年 浜松医科大学 麻酔科
- 1998年 聖隷三方原病院 麻酔科
- 1999年 浜松医科大学 院生兼ICU勤務
- 2003年 浜松医科大学 ICU
- 2004年 ペンシルバニア大学 医学部 麻酔科
- 2006年 浜松医科大学 麻酔科
- 2007年 静岡県立総合病院 麻酔科
- 2008年9月～現在 りんくう総合医療センター 麻酔科

泉州広域母子医療センター

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

●周産期センター(産科・小児科)

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として 泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。

QRコード



詳しくはwebサイトをご覧ください。